

(参考)

16林政経第115号  
平成16年10月25日

各都道府県特用林産担当部長 殿

農林水産省消費・安全局農産安全管理課長  
農林水産省林野庁経営課長

急性の脳症を疑う事案の発生について

スギヒラタケの摂取について、別添のとおり厚生労働省健康局疾病対策課長及び同省医薬食品局食品安全部監視安全課長から、平成16年10月22日付けで各都道府県等担当部局長あてに通知が発出されたので、食用の特用林産物の関係機関、団体及び関係者に周知方よろしく申し上げます。

また、スギヒラタケは、地域によっては、スギカノカ、スギカヌカ、スギモダシ、スギミミ及びスギナバといった名前では呼ばれていることから、各地域での呼び名を確認し地域の関係者に周知するとともに、この時期は天然きのこの主要な発生時期となっているので、スギヒラタケの見分け方の周知及び採取されたきのこの判別に配慮をお願いします。

(参考)

- 1 急性脳症患者の発生時期、場所(10月25日16時30分現在)  
9月末～10月中旬

新潟県北部	11人(死亡4人)
山形県南部	2人( " 2人)
秋田県	15人( " 3人)
	<hr/>
	28人( " 9人)

- 2 症状

足の脱力感、ふらつき けいれん 意識障害  
(重篤化)

- 3 共通ファクター

患者すべてに腎障害がある。

スギヒラタケを食べている(ただし、スギヒラタケは毒キノコではない)。

- 4 厚生労働省の取組

原因究明のため、専門家を現地(新潟県)に派遣

10月22日付けで自治体に対して、腎機能が低下している方への安全性が確認されるまでの間これらの方々に対しスギヒラタケの摂取を控えるよう注意喚起を依頼

(参考)

スギヒラタケは、キシメジ科スギヒラタケ属のきのこで、栽培は行われておらず、スギ等の切り株・倒木に夏から秋にかけて自生するものを採取して、北陸、中部、東北地方を中心に、食用きのことして食されている。

スギヒラタケの生産量 (全国の採取量) 平成15年  
1,200kg

主な生産地(採取地)新潟県、秋田県等

## スギヒラタケの特徴

秋に針葉樹、とくにスギの古い切り株・倒木に多数重なり合っ  
てる。

色は白色、傘はほとんど無柄で、初めはほぼ円形であるが、しだいに生長して耳形~扇形、あるいはへら形となり、径2~6cm、基部に毛があり、ふちは内側に巻く。肉は質薄く白色。ひだは幅狭く、極めて密、しばしば分枝する。

スギヒラタケは、スギの古い切り株や倒木に、秋、白色、耳形・扇形(ひらたけ型)、多数重なり合っ  
て発生するきのこである。